

毛利栄子 県議が12月4日、11月県議会（11/26～12/11）一般質問に立ちました。質問と答弁の要旨を紹介します。



ひとり親家庭 困難に寄り添いサポートを

毛利 ひとり親家庭の貧困率は54.6%と高い。あるシングルマザーの方は、子どもの学費のためにトリプルワークで深夜2時までコンビニで働いたあげく体を壊してしまっ。子育てや家計を一人で担い限界まで頑張っている。県内のひとり親家庭の実態はどうか。

県民文化部長 県が行ったひとり親家庭実態調査によると、就業形態では非正規雇用が48.6%、正社員は33.4%と、不安定雇用が多数。特に困っていることとして、進学など子どもの将来を上げる人が多く、経済的に厳しい状況などがあると認識している。

毛利 母子父子寡婦福祉資金の滞納回収を民間に行わせているが、単なる回収にせず、職員が状況をつかみ相談にのる機会にすることこそ大事。民間委託は中止を。

県民文化部長 滞納の多くは就学資金などで、滞納理由は卒業後職につけない、非正規雇用で収入が少ないなどとなっている。催告に応じない滞納者について民間委託しており、来年度も続けたい。

毛利 給付型奨学金の創設など、県としての援助を真剣に検討してほしい。

18歳選挙権 高校生の選挙・政治活動の自由 尊重を

毛利 18歳選挙権は歓迎するが、文科省は学校内外で政治活動のあり方を区分けしており、政治活動を萎縮させかねない。憲法21条で保障された集会・結社・表現・政治活動の自由は尊重されるべき。

教育長 高校生の校内での政治活動は、学校の管理上の問題、学業への支障、学校の政治的中立性などの観点から、一定の制約を受けるのは当然と考える。

毛利 学校教育において政治的中立や公正は当然のことだが、あたかも政治問題に触れてはならないかのごとく捉えられ学校関係者を困惑させている。原発や安保法制など現実に起こっている問題を取り上げ、自ら考え議論し深めていくことが主権者教育として必要ではないか。

教育長 主権者教育では、現実の具体的な政治的事象や地域課題を扱う学習も重要。政治的中立性の確保に留意し、見解の異なる複数の意見を取り上げ、生徒が公正な判断力を身につけることが大切。

大北森林組合 補助金不正受給 知事の責任を追及

毛利 不正受給の14億7900万円がどこへ消えたか、元専務が1億円着服したと告白したものの、いまだ闇の中。真相究明は程遠い。さらに、1円の返還もないのに、申請が整えば無条件で1億円近い補助金（26年度分）を組合に交付することは納得できない。知事は、県組織の最高責任者として徹底的に真相究明を行い県民の信頼回復を図ってほしい。

阿部知事 コンプライアンス（法令順守）推進により信頼を回復したい。

毛利 公務員の法令順守は当然のことであるにも関わらず守られなかったわけであり、原因をさらに深く掘り下げるべき。知事は自分ごととして、いつ、どのように責任を取るのか。

阿部知事 時期等についても私が責任を持って自ら考え対応したい。

質問を終えて…毛利
大北森林組合問題では、組織のトップである知事が人ごとのような答弁で、これで真相究明できるのかと怒！